

2023 年度 第 1 回 学校教育事業委員会
議事録

日 時：2023 年 9 月 29 日（金）
午後 3 時 00 分～4 時 30 分
会 場：神戸 YMCA 三宮会館
オンライン会議

I. 出席者

濱瀬 眞知子、岩野 祐介、上谷 円、栗原 由加、中出 恵子 (以上委員)
西田 勉 (担当理事)
高等学院担当職員 櫻井 英治、川北陽子
専門学校担当職員 横山 徹太郎、鐘 瑋悦、古谷 茉穂、中道 愛子 (担当主事)
(以上職員)

I. 欠席者

海老 直人、岩本 哲人、松本 聡子 (以上委員)

I. 聖書朗読

ローマの信徒への手紙 14 章 19 節

「平和や互いの向上に役立つことを追い求めようではありませんか」

(2023 年神戸 YMCA 年間聖句)

I. 開会祈祷

中道氏により開会祈祷がなされた。

I. 議題

1. 神戸YMCA全体報告

担当理事西田氏より、報告がなされた。

・幼稚園・保育園をはじめとする、こどもを対象とした事業が盛んな一方、ファミリーウエルネスセンターで成人活動を GOLD GYM に事業継承するなど、成人活動が縮小傾向にある。ユース・おとな世代へのアプローチが課題。

2. 委員長、副委員長の改選

委員長と副委員長の改選について協議を行なった結果、2023-24 年度神戸 YMCA 学校教育事業委員会委員長を濱瀬委員に続投していただくことを議場一致で決定した。副委員長に関しては、神戸 YMCA より海老直人委員に続投いただきたい旨を提案し、承認を得た。海老委員には、後日改めて依頼をして副委員長の承諾を得た。

以上決議

3. 2023 年度各校の状況報告

1) 高等学院

①学校状況について、川北氏、櫻井氏より別紙資料に基づき報告がなされた。

- ・行事について：学園都市 YMCA 会館内での連携として、小規模保育ルームでの実習を行った。2 名の生徒が実習したことを加えた。
- ・生徒アンケート：一見したところ、順調に学校生活を送ることが出来ている生徒が多いが、心理的な不安は常にベースにあること、生徒だけでなく保護者の不安に対するケアもアプローチや

学びが必要だと感じていることを報告した。今年度は、カウンセリングルーム利用への強化を行っており、みどりトータルヘルスとの連携を強めているが、教育事業委員会の皆さまにもリソースとして良案があれば教えを請いたい。

- ・2023年度は8月からweb 広告を出すようにした。4月からの資料請求数は前年比で減少をしたが、7月は去年より増えている。9月の資料請求数は13件と昨年同月比で同じとなった。通信制高校を希望している生徒または保護者が、多数の学校を見て、きちんと勉強ができるところ、きちんと指導してくれるところを志望しており、それで見つけたのが高等学院ではないかと、捉えている、
- ・オープンハイスクールの予約数は、昨年度より増加しているが、午前の学校説明会に参加後、午後の体験授業に引き続き参加するのは困難なのか、キャンセルが多くなっている。次年度に向けて、時間帯の見直しが必要と感じている。

以上の報告を受け、以下の質疑がなされた。

- ・アルバイトはどこでしているのか。
→業種は様々だが、ホームセンターが多い。大学のようなスタイルの高等学院の生徒が時間を有効に使いやすいこと、バックヤードなど表に出なくてもよい仕事もあるため心理的に選びやすい。
- ・アンケートを通して、2年生はある意味順調に成長段階を経て不安定さがある。3年生にも不安定な気持ちを見受けられるが、実際の学生はどのような感じなのか。
→心理的な不安が常にベースにある。生徒と同じく保護者にもある。順調に見えても丁寧な観察が必要であり、保護者も含めたサポートや理解をどのようにするかは今後も課題である。

2) 専門学校

①ホテル学科

古谷氏より、別紙資料に基づき報告がなされた。

- ・留学生の動きが早く、夏からOCの参加者がいるが、多くの留学生はN3レベルしか持っていない。
- ・2年生16名ホテル(神戸10名)、1名ブライダル、その他4名。
- ・1年生の人数少ないため、カウンセリングを1人につき2回実施できた。
今年度は性格検査・行動パターンをはかる「TEG」を導入、結果がよかったため来年度も継続予定。

以上の報告を受け、以下の質疑がなされた。

- ・スウェーデンの学生との交流について、今年の学生の関心度が高く非常によかった。
- ・共立メンテナンスよりインターンシップの採用についての情報共有がなされた。インターンシップ先を広げるよう、人事の担当とつなげることになった。共立メンテナンスは東京の会社だが関西での採用に力を入れているとのこと。
- ・栗原委員より、ホテル学科から「POLA化粧品」の紹介を受け、留学生の就活生がメイク講座に参加したところ、10名以上の学生が参加し、そのほとんどが内定につながったと報告があった。

②日本語学科

鐘氏より別紙資料に基づき報告がなされた。

- ・学生数は昨年より上がっている(全国的)。ミャンマー3倍、韓国6割。(神戸は申請なし)
- ・台湾YMCAでの日本留学説明会において、神戸YMCAのブースにはコロナ前以上の人数がブースに集まった。短期留学の希望者が増えている。短期で日本での生活の様子を見て長期留学を検討する層が増えている。

- ・中上級の学生の25%が就職、65%が進学の割合となっている。また、新入生の割合が、漢字圏、非漢字圏の割合が5:5に戻った。
- ・初級クラスの特徴として、ボランティア活動に熱心な学生が多い。
- ・全国的に精神的に不安な留学生が増えている。専門家によるコンサル対応を開始。
- ・2024年度より日本語教育機関の認定制度の施行、日本語教師が国家資格へ移行する。今後非常勤講師には登録日本語教員になってもらうこと、新しい講師採用が課題となってくる。

以上の報告を受け、以下の質疑がなされた。

- ・鐘氏から栗原委員に、神戸学院大学でも精神的に不安を抱える学生の傾向と学校側の対応について質問がなされ以下の応答がなされた。
 - 大学でも精神的に不安を抱えている留学生は増えている。特に漢字圏の学生が多い。
 - ビザを取得しているにも関わらず、学校ではなく塾で勉強している学生が多い。本国での進学をあきらめている層が来日していることで、進路への不安をかかえる学生が多くなっている傾向。相談を受けるにあたり、言葉の問題か精神的な問題なのかを見極めるのが難しい。
 - 就職したら会社でトラブルが起こった場合、企業はどうしていいのか分からないという問題もある。
 - 神戸学院では多言語対応はしていない。
- ・岩野委員より以下の返答がなされた。
 - 関学神学部は留学生数が少ない。カウンセリング面では宗教の関係もあるため、対応が難しい。

4. その他

1) 中道氏より学校教育事業推進会議の報告がなされた。

- ・学生の精神面ケアという課題があるなか、教職員を対象とした研修の実施を考えている。日本語学科に、うつ病の学生が現在2名いる。高等学院については、開校当初から多くの生徒が心に問題を抱えている。両校の教職員を対象とした研修とする。うつ病の症状や、うつ病の学生との接し方など、基本的な知識を、教職員が学ぶ場とする。講師は、両校のカウンセリングを担っているみどりトータルヘルス研究所より、講師を候補と考えている。
- ・委員の皆様の現場においても教員研修で取り上げるべきテーマがあれば教えていただきたい。

2) 次回開催日について

2024年3月22日(金) 15:00～

年明けに再度委員の予定を確認した上で開催日を確定とする。

5. 閉会祈祷

岩野委員による閉会祈祷で閉会した。

I. 閉会

以上